

業種別下請関連企業の 現況と見通し



(対象期間 平成15年7月～9月)

業種加工内容	ポイント	現況	見通し
【繊維・繊維製品】 	<p>「操業度100%超」はわずか10%で全業種中最少である。発注企業の海外シフトや中国製品との競合に苦しんでいる企業が多い中、高級婦人服、子供服、特別サイズ品等を“単品生産”と言って良いほどの小ロットで生産している企業は比較的好調である。</p>	<p>かなり悪い</p>	<p>かなり悪い</p>
【合成樹脂製品】 	<p>「売上が増加した」が24%から32%へ、「利益が増加した」も18%から26%へと再び増加に転じた。「操業度100%超」も24%から43%に増加し、明るさが見えてきた。FRP製品の企業が苦戦している反面、コネクタ、携帯電話、デジタルカメラ関連の企業が好調である。</p>	<p>普通</p>	<p>普通</p>
【鑄造】 	<p>「売上が増加した」が57%から50%に減少したものの、「利益が増加した」は15%から42%に増加しており、売上と利益のバランスは改善された。「業界全体が上向き」の33%は全業種中最多であるが、これまで需要を牽引してきたトラック部品も一段落しつつあるという意見もあり、必ずしも楽観はできない。</p>	<p>いい</p>	<p>普通</p>
【鉄骨・製缶】 	<p>「売上が増加した」「利益が増加した」とも該当する企業がなかった。さらに、「利益が減少した」の89%、「操業度100%未満」の89%及び「受注単価が値下がりした」の78%はいずれも全業種中最多であり、深刻な状況がいつそう進んでいる。</p>	<p>かなり悪い</p>	<p>かなり悪い</p>
【機械加工】 	<p>「売上が増加した」が55%(前回44%)、「利益が増加した」が45%(同31%)でともに4期連続の増加となった。業界別に見ても自動車、OA機器、半導体・液晶製造装置関連と満遍なく伸びている。しかし、価格面では依然として厳しく、「30～40%のコストダウン要請を断ったら発注がなくなった(某回答企業)」という事例もある。</p>	<p>いい</p>	<p>いい</p>
【プレス・金型】 	<p>「売上が増加した」が55%から36%に、「利益が増加した」も55%から43%に減少し、上昇傾向はそれぞれ5期連続、4期連続でストップした。しかし、「操業度100%超」が64%で全業種中最多であるなど、生産活動は依然として高い水準にあることがうかがえる。</p>	<p>いい</p>	<p>いい</p>
【金属製品】 	<p>売上については「増加した」「減少した」がそれぞれ49%から52%に、26%から38%に増加しており、二極分化の傾向にある。「売上が増加した」「利益が増加した」がともに全業種中最多であり、全体としては好調と言えるが、景況感「わからない」が21%で全業種中最多であるなど、先行きの不透明感が強い。</p>	<p>いい</p>	<p>いい</p>
【組立】 	<p>「売上が増加した」が28%から41%に増加した反面、「利益が増加した」が26%から18%に減少しており、利益の面では依然として厳しい状態にある。近年、人材派遣及び構内外注を希望する発注企業が増えており、従来型の下請企業が受注を確保することが難しくなってきている。</p>	<p>悪い</p>	<p>かなり悪い</p>

天気図は、「下請中小企業経営動向調査」結果並びに下請取引あっせん業務の窓口から見た生産状況、収益性を総合的にとらえたものです。

『精密板金』表面処理については『金属製品』に取りまとめています。

「売上の増減」及び「利益の増減」は前年同期との比較、「受注単価の増減」は前3ヵ月との比較です。「操業度」については、所定の勤務時間をフル操業している状態を100%として回答していただいております。

お問い合わせ先

取引支援課

TEL 019-621-5385 FAX 019-621-5480

URL <http://www.joho-iwate.or.jp/torihiki/> E-mail sitauke@joho-iwate.or.jp